

全国の舞台へ挑む

まだ肌寒い4月に始まった今年の訓練は、暑い夏を過ぎてでもなお、続けられていた。今月、山武市消防団第4分団第2部(本須賀岡)が、4年に一度開催の全国消防操法大会ポンプ車の部に千葉県代表として出場する。

事実上今年初となる、山武市代表の操法大会出場選手たち。今年入団した団員から、7年目になる団員まで、仕事も年齢もまったく違う団員たちが、一週間のうちどれだけの時間を共にしてきたのだろうか。

7月26日に開催された、第44回千葉県消防操法大会で優勝してから約1か月後の9月2日午後7時30分、操法大会に向けての訓練が再開。初日にもかかわらず、大きな声で厳しい指導は続けられた。重いホースを担ぎ、53メートルの直線を何度も何度もダッシュ。細かな動き、姿勢に少しでもズレがあれば怒鳴られる。苦しそうな表情、肩で呼吸するその姿は体力の限界を超えていた。

しかし、選手たちは誰一人として、教官に反感を抱かない。的確な指導、ここまで来て半端な気持ちでできない。その思いが伝わってくるのだという。

訓練時、何度もホースを巻き直してくれた同じ消防団の団員や、市内消防団の団員の方々。昼夜を問わず指導にあたってくれた教官や、いつも心配してくれた家族の前で、今月12日、その結果を見せてくれる。

日時 10月12日(日)午前9時
会場 東京ビッグサイト

集中



インタビュー

目指すのは優勝のみ



平成8年、16年と東金市を、そして今年、山武市を全国大会へと導いた山武郡市広域行政組合 東消防署救助係長

齋藤 孝通 氏

5月の連休明けから団員を指導。団員を見て、手ごたえなし、勝てる様子なしの不安だらけでした。初めは一連の流れ、次に細かい点、そして自分の動きに持っていく。これまでの指導経験がものをいう。那大会は訓練どおりにやれば優勝できると思っていたが、県大会はまずいと思いました。現地訓練をした際、暑さでバテバテの要員たち。内容も悪く、見ていた関係者には「今回は大変だね」とまで言われた。しかし、団員たちは頑張った。大会前に県の教官に指導を受け、要員たちはその指導を忠実に修正し、県大会に挑んだ。その結果が評価されたのだと思う。辛い時期を共に過ごしてきたからこそ、県大会で優勝した時は嬉しかった。大会は、他の団員たちと家族の協力がなくてはならない。次は全国大会、行くからには勝つしかない。